



多様な子どもの育ち・学びを支える音環境

▶▶▶ 地域子ども教育学科 講師 野口 紗生

1 - 研究 - 多様な子どもを支えるインクルーシブな音環境の実現に向けて

音への困りごとのある子どものための音環境づくり

“騒がしさが苦手”といった聴覚過敏, また聴力的に聞こえてはいるものの音声情報として認識することが難しい聴覚情報処理障害 (APD) など, 様々な音の困りごとが指摘されています。物理的には「聞こえている」けれども、その音が「苦しい」「怖い」「聞けない」という状態にあり, こうした状況に置かれている子どもにとっては深刻な問題です。

こうした音環境面での課題に対し、「吸音効果」を導入することで改善されることが示されてきました。過敏な子どもの生活の安定へとつながると共に、過敏でない子どもにとっても「必要な音を聞きやすい」「円滑なコミュニケーションをはかれる」との良好な効果が捉えられました。

社会的理解の拡充に向けたワークショップ実践

特に子どもの場合は、音の困りごとを本人が自覚したり、周囲の理解を得ることが難しいとの課題もあります。そこで、音への感覚の違いを理解したり、音の視点を保育教育現場に導入するためのワークショップに取り組んでいます。



▲国内外における調査・音環境づくり実践例

2-社会活動

- ・一般社団法人こどものための音環境デザイン 理事 (2020年～)
- ・日本音響学会音響教育委員会 幹事 (2024年～)・委員 (2021年～)
- ・日本建築学会子どものための音環境ワーキンググループ 幹事 (2013年～)

アウトリーチ活動

- ・研修会講師・ワークショップ (2016年～)
- ・保育教育・発達支援等施設における音環境づくり支援 (2018年～)

相談に応じられる分野

- ・ユニバーサルデザイン ・ 音 ・ 人間と環境
- ・多様な子どもの育ち・学びを支える居場所づくり

